

毎年6月23日から6月29日までは
国の男女共同参画週間です

令和3年度 男女共同参画週間キャッチフレーズ

「女だから、男だから、ではなく、私だから、の時代へ。」

「自分を好きになって、自分を信じ、創り上げた自由な発想が受け入れられる社会。みんなで築いていく男女共同参画とは?!」ユース世代から募集したキャッチフレーズの最優秀作品です。

※市役所からのお知らせ【第4次小山市男女共同参画基本計画の策定について】

令和3年度から令和7年度の5年間を計画期間とした基本計画を策定いたしました。

これまで、男女共同参画を推進するため、社会情勢に対応した施策を積極的に実施してきましたが、性別による役割を固定的にとらえる意識や慣行がまだまだ根強く残り、DVや各種ハラスメントの蔓延、政策・方針決定過程への女性の参画や男性の家庭生活への参画が十分でないなど、多くの課題が残されています。このような現状を踏まえ、男女が互いに尊重し合い、自らの意思と責任により社会のあらゆる分野に対等に参画し、誰もがいきいきと生きられる男女共同参画社会の実現についての取組を継続し、あらゆる分野における女性活躍の支援をさらに発展させる計画としました。なお、この計画は、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策についての基本的な計画であり、第2次小山市女性活躍推進計画を包含しております。(詳しくは小山市HPをご覧ください。)

〈編集後記〉

「3密」が流行語大賞に選ばれる等、新型コロナウイルスに振り回された1年になりました。会員の皆様は、このコロナ禍をいかがお過ごしでしたでしょうか。推進協議会におきましても大幅に活動を制限せざるを得なくなってしまうまい。

総会は「書面会議」で、県外の研修会等は「オンライン」で参加、また、実施可能な研修や会議は「参加人員の削減・消毒・換気・体温測定」とコロナに注意しての活動でした。さらに、市や公民館・各種団体主催のイベントでの啓発活動は「中止」になってしまいました。新たな推進協議会発足1年目・2年目と活動が充実してきただけに、3年目に活動を縮小せざるを得なかった事は本当に残念でなりません。

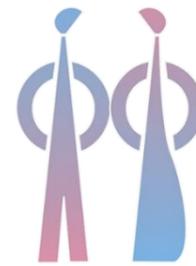
最後になりますが、早くコロナ禍が収束するよう願うとともに、私たち一人ひとりが感染防止に努める事が大切だと思っています。次号の「にじいろ おやま」では充実した内容で発行できるよう頑張りたいと思っています。

男女共同参画社会とは

性別にとらわれず、社会のあらゆる分野に女性も男性も等しく参画し、家庭・地域・職場において協力し、共に責任を担い、一人ひとりが個性と能力を発揮し、家庭とその他の生活活動が、両立できる社会です。

発行：小山市男女共同参画推進協議会
編集：小山市男女共同参画推進協議会 広報部会
〒323-8686 栃木県小山市中央町1-1-1
(事務局) 小山市役所 人権・男女共同参画課
電話：0285 (22) 9296
FAX：0285 (22) 8972

小山市男女共同参画推進協議会 会報



にじいろ おやま

第3号 2021年6月15日 発行

今年度の活動報告

この度の新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当協議会において予定しておりました行事のほとんどを中止せざるを得ない状況となりました。その中で、活動できた行事について報告いたします。

【新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した主な行事】

- 第8回男女共同参画推進協議会総会・研修会(総会は書面会議)
- 日本女性会議報告会・防災研修
- 男女共同参画推進のための地域交流会
- 街頭啓発(公民館まつり・市民交流センターまつり等)

研修報告

【2020年8月27日(木)NWECオンライン配信を視聴して】

NWEC男女共同参画フォーラムの、林陽子氏による基調講演をオンラインでする、と聞いて早速申し込みました。

例年なら8月末に埼玉県嵐山のNWECへ、バスで片道2時間ほどかけて参加してやっと聞けるのが、コロナ禍のせいで自宅で聞くことができる、というのも面白いと思いました。残念ながら時間の都合上、林氏の「私たちはジェンダー平等をどこまで達成できたのか?—世界から見たニッポン」(8月27日LIVE配信)しか、視聴することはできませんでしたが、この表題は正確に内容を表していました。歴史的な分析、現代のグローバルな視点からの私たちや日本の実態、法律による差別の残存など、耳に痛いこと、普段見過ごしがちなことをきっちり語っていました。今回の配信の素晴らしいことは、あの日あの時間あの場所にいなくても、まだ、「あなたも視聴できる」ということです。百聞は一見にしかず。是非、「令和2年度男女共同参画推進フォーラムオンライン」を検索して、あなたのスマホやパソコンで視聴することをお勧めします。

すこしずつ、自分から変わっていくために、一緒に学びませんか?
動画サイトYoutube内の「NWEC Channel」で見ることができます。



NWEC Channel

「NWEC」って何?

独立行政法人 国立女性教育会館(National Woman's Education Center)の頭文字をとってNWEC(ヌエック)と呼んでいます。

昭和52年文部省の附属機関として埼玉県比企郡嵐山町に設置以来、女性教育の振興を図り、男女共同参画社会の形成の促進に資することを目的とした唯一のナショナルセンターです。性別を問わず誰でも利用できる施設で、600人を収容できる講堂や19の会議室や研修室、宿泊施設、体育館、茶室等の施設が完備。様々な研修を実施し、特に毎年8月実施される「男女共同参画推進フォーラム」は全国からの多くの参加者を集める大きな研修で、小山市男女共同参画推進協議会も参加しています。

【2020年9月16日（水）パーティ公開講座に参加して】

男女共同参画セミナー公開講座「ジェンダーがつなぐ科学技術イノベーション」が9月16日に、とちぎ男女共同参画センターパーティホールで開かれました。

講師は科学技術振興機構の渡辺美代子さん。

参加前は“ジェンダー”と“科学技術”と少々無機質で固いイメージでしたが、話が進み、ジェンダーの概念を含めた歴史的観点、グローバルな観点等、様々な分野から細かなデータが、次々と紹介されていきます。このデータの集積には説得力があり、ジェンダーの問題がいかに現代の私たちの生活に深く関係しているかを、改めて理解できました。

テーマである科学の分野において、ひとつ例をあげると、創薬の研究開発では、実験にオスの動物を使用するため、女性には効果が低い場合があるそうです。今後、性差を考慮する必要があり、科学におけるジェンダーの新しい流れがあるようです。現在の閉塞的な社会・経済において、今こそ誰もが能力を発揮できる社会のしくみの構築こそ、日本の未来を、世界の未来を変える原動力となるのではないのでしょうか。男性対女性、仕事対家庭、といった対立関係は、何も生み出さない。枠を越えて総力戦で、未来へ向かう必要があると思います。今回のセミナーでの大きな収穫でした。

「パーティ」って何？

とちぎ男女共同参画センター（愛称「パーティ」）は、男女共同参画社会を目指す県民の自主的・主体的活動を幅広く支援する施設として平成8年宇都宮市野沢町にオープンしました。パーティでは様々な講座や相談事業を実施しています。



【おやま男女共同参画の会】

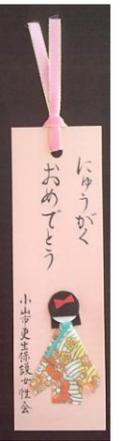
新型コロナウイルス感染拡大のため、今年度は定例会も少なくなり予定した事業も中止しました。各自が学び、できること、やりたいこと、気づいたこと等を定例会があるとき話し合い共有することにしました。

10月に「みんなで広げよう シトラスリボンプロジェクト」に参加しました。コロナ禍で感染された方や、医療の最前線で働いている方々が差別されることのない、やさしさにあふれる社会であることを願ってできた活動です。柑橘系の色を3色使ってできた3つの輪は地域と家庭と職場（学校）を表しています。シトラスリボンをつけて「ただいま」「おかえり」と言い合えるまち、そして安心して暮らしやすい社会を目指していきたいと思いました。

11月は「SDGsから考えるこれからの男女共生 ～暮らしやすい社会をつくるには～」をテーマに講師の工藤敬子さんからお話を聞きました。平成は女性活躍推進法が可決され女性活躍の時代になりました。令和の時代は男性が育児や家事や介護の当たり前になる男性家庭活躍時代になるように。人生100年時代、大切な選択は「自分で決めること」それが「自分らしく、幸せに生きる」ための第一歩とのことでした。

【小山市更生保護女性会】学校とのつながり更女活動

コロナ禍のなかで、乙女小学校へ。今年で3年目、5年生が新1年生のため、メッセージつき菓を贈っています。その菓をつくる作業に、更生保護女性会が講師として協力しています。新型コロナウイルス感染予防として、児童間の距離を保って会場は体育館、換気は扉と窓を開放し、暖房を使うなど配慮されました。講師が壇上からスクリーンとマイクでの説明、菓の裏側には「学校は楽しいよ！待ってるね」という思いを書き入れ、出来上がった喜びの笑顔にふれ、喜ばしく思っています。学校には機会をいただき感謝しております。



【2020年11月2日（月）パープルリボン作成に参加して】



国では毎年11月12日から25日までの2週間を「女性に対する暴力をなくす運動」期間としており、市ではこの期間を「小山市パープルリボン運動」期間とし、その運動の象徴である「パープルリボン」等を活用して暴力根絶を呼びかける運動を実施しています。

当協議会では、11月初めに会員の皆様にパープルリボンの作成をお願いしており、今年度は11月2日（月）に実施し、参加された方々からの感想をいただきました。

パープルリボン運動・・・新聞やTVを見て知っているつもりでした。DVDを視聴し、自分は浅はかな考えだったと痛感しました。DV被害で悩んでいる人は、普段は夫のいない平日の昼間に電話相談するのに、コロナ禍で家族が家にいるから電話もかけられない。つらいまま我慢しているかもしれない、とても衝撃を受けました。「一人で悩まないでほしい・・・」はじめてのパープルリボン作りをしながら、そしてそのリボンを胸につけ強く思いました。（推進員 H・Iさん）

今回初めて参加させていただき、あらためてDVについて考えさせられました。知らないだけで、身近にあるDV。DVに苦しんでおられる方の少しでも力になればと思います。今回参加できて良かったです。ありがとうございました。（推進員 M・Tさん）



【トピックス】男女格差（ジェンダー・ギャップ指数）に見る日本の順位

生物学的な性別に対する用語として、社会通念や慣習の中で作り上げられた「男性像」「女性像」があり、このような男性、女性の別を社会的性別（ジェンダー）といいます。

「ジェンダー・ギャップ指数」とは、世界経済フォーラムが毎年発表している、各国における男女格差を測る指数です。この指数は経済・教育・健康・政治の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を示しています。

令和3（2021）年3月に公表された「ジェンダー・ギャップ指数2021」における日本の順位は、156か国中120位で、G7の中でも最下位となっています。日本のそれぞれの指数は、経済が0.604、教育が0.983、健康が0.973、政治が0.061で、特に、政治と経済の分野において諸外国と比べて男女間の格差が大きい状況です。ほかの国々で急速に男女格差が縮小しているのに引き換え、日本はその変化のスピードから大きく後れを取っています。